

地域素材を効果的に活用した教育実践<日本遺産「炭鉄港」～空知の石炭> ～生まれ育ったふるさとに愛着と誇りをもつ授業づくり～ 美唄市立美唄中学校 学級数8 (校長 井畑 靖彦)

I 実践テーマの趣旨

本校では、生まれ育ったふるさとに愛着と誇りをもち、変化の激しい予測不能なこれからの時代をたくましく生き抜く力を育むため、地域素材を効果的に活用した教育実践に取り組んでいる。その中で、令和元年5月に、近代北海道を築く基となった三都（空知・室蘭・小樽）を石炭・鉄鋼・港湾・鉄道というテーマで結び、人と知識の新たな動きを作り出そうとする取組である「炭鉄港」が日本遺産に認定された。この「炭鉄港」を教材として、地域資源が近代北海道の発展に果たした歴史的な意義についての学習や、地域資源を活用した美唄市の未来を考える学習を通して、生まれ育ったふるさとに愛着と誇り育む授業づくりを実践している。

II 実践の概要

1 ふるさとに愛着と誇りをもたせる授業実践

地域人材を活用し、昔の美唄市の繁栄を知る方や元炭鉱の関係者を講師に招き、炭鉱で栄えていた頃の美唄市の様子について講義を行うとともに、空知総合振興局が作成した「炭鉄港」に係るDVDや美唄市が賑わいを見せていた頃の実際の映像、昔の住宅マップ等を活用し、美唄市が果たした歴史上の役割について学習した。また、生徒に、自分たちのふるさとの過去を学んだ上で、現在の状況を見つめ、これからの美唄市の未来に向けて自分たちは何をすべきかについて考えさせた。その際に、地域の「ヒト・モノ・コト」をどのように活用して課題を解決するかなど、社会的な見方・考え方を働かせた学習活動を通して、深い学びにつなげることができたとともに、生徒は自分たちの地域にある資源の価値を理解し、ふるさとへの愛着や誇りをもつことができた。



【「炭鉄港」の授業の様子】

2 地域素材と社会科との関連を図った授業実践

社会科の授業において、「炭鉄港」と各分野との関連を図った授業実践を行った。

地理的分野では、「ヨーロッパ州」の単元において、かつて石炭産業で栄えたルール地方が、現在は当時の立て坑を活用した観光業を主要な産業としていることを学習し、美唄市と比較させることで、授業に対する興味・関心を高めることができた。

歴史的分野では、「近代の日本」の単元の前に「炭鉄港」の学習を取り入れ、日本の発展に美唄市が果たした役割を理解させることで、生徒に学習内容を身近に感じさせることができた。

公民的分野では、単元「地方自治」において、炭鉱遺産を生かし、美唄市の交流人口や関係人口を増加させるための取組を考えさせることで、地域の活性化に向けた活発な意見交流を行うことができた。



【地理的分野の授業の様子】



【公民的分野の授業の様子】

III 取組の成果と課題

- 日本遺産に指定された貴重な地域素材である「炭鉄港」についての学習を通して、生まれ育ったふるさとへの愛着や誇りを育むことができた。
- 地域素材と社会科の教科書の内容を関連させることで、教科書の内容を生徒が自分事として考えるようになり、主体的な学びにつなげることができた。
- 地域素材を効果的に活用した授業づくりを進めるため、さらなる教材開発や教材の吟味、教育課程上の位置付けの工夫を行う必要がある。